

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計、家計調査(2012年4月)
 ~前月比で小幅減だが、均してみれば底堅い~

発表日2012年5月29日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額										コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店	スーパー	前年比	既存店前年比		
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比			既存店前年比	
11	1月	3.3	4.0	4.6	3.7	0.1	3.6	1.5	▲0.7	▲1.1	▲0.5	7.1	4.5
	2月	5.3	0.8	7.2	1.1	0.1	2.1	3.2	0.5	0.6	0.5	8.5	5.9
	3月	▲1.3	▲9.3	1.2	▲9.1	▲8.3	▲8.1	▲4.5	▲7.4	▲15.0	▲2.9	9.1	7.2
	4月	▲2.6	3.6	▲1.7	3.1	▲4.8	3.6	1.1	▲1.9	▲1.8	▲1.9	3.0	1.0
	5月	1.3	0.7	2.3	0.0	▲1.3	2.9	0.8	▲2.5	▲2.6	▲2.4	7.3	5.1
	6月	3.1	1.4	3.8	1.3	1.2	2.5	2.5	▲0.5	0.1	▲0.8	10.9	8.3
	7月	2.3	▲0.2	3.0	▲0.2	0.6	▲1.2	1.8	0.8	▲0.4	1.5	11.4	8.9
	8月	3.1	▲0.9	5.2	▲0.6	▲2.6	▲0.7	▲1.8	▲2.6	▲2.1	▲2.9	9.1	6.6
	9月	0.3	▲1.5	0.8	▲1.9	▲1.1	▲1.3	▲2.4	▲3.6	▲2.8	▲4.0	▲1.8	▲4.1
	10月	1.1	0.7	0.8	0.4	1.9	0.7	▲0.5	▲1.4	▲0.8	▲1.7	16.4	13.5
	11月	▲2.3	▲0.9	▲2.4	▲0.5	▲2.2	▲1.3	▲1.6	▲2.5	▲2.2	▲2.7	10.5	7.3
	12月	▲0.8	1.8	▲2.0	1.7	2.5	0.7	0.6	▲0.3	0.7	▲0.9	7.4	4.0
12	1月	▲2.0	2.1	▲3.5	1.2	1.8	3.1	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲1.2	4.9	1.6
	2月	▲0.1	1.3	▲1.3	2.2	3.4	2.0	1.3	0.2	▲0.5	0.6	8.8	4.4
	3月	2.9	▲4.3	0.5	▲4.9	10.3	▲1.2	6.1	5.1	14.2	0.5	4.4	0.3
	4月	1.8	1.7	0.3	1.9	5.8	▲0.3	0.2	▲0.5	1.6	▲1.6	10.3	6.2

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)				実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		合計		除く住居等(※)		前年比	前期比	季調値	前期比
		前年比	前期比	前年比	前期比				
11	1月	▲0.3	0.9	▲0.5	▲0.2	▲2.7	▲0.7	75.9	1.6
	2月	0.5	▲0.8	0.2	0.4	2.1	4.1	72.3	▲3.6
	3月	▲8.2	▲3.1	▲7.2	▲3.5	▲3.0	▲4.7	72.4	0.1
	4月	▲2.0	0.8	▲2.0	0.4	▲1.8	1.8	72.1	▲0.3
	5月	▲1.2	▲0.4	▲1.1	0.5	▲2.9	▲1.6	73.4	1.3
	6月	▲3.5	0.5	▲2.8	0.5	▲5.9	1.1	72.6	▲0.8
	7月	▲2.1	0.9	▲1.0	1.4	1.1	2.2	71.9	▲0.7
	8月	▲4.1	▲0.2	▲4.0	▲1.9	▲1.9	▲2.1	74.0	2.1
	9月	▲1.9	0.8	▲1.6	1.5	▲1.4	1.2	74.1	0.1
	10月	▲0.4	0.3	▲1.7	▲0.2	▲3.8	2.3	72.7	▲1.4
	11月	▲3.2	▲0.4	▲4.0	▲0.7	▲1.2	▲2.8	74.1	1.4
	12月	0.5	▲0.1	▲0.1	0.3	▲1.0	▲1.2	74.5	0.4
12	1月	▲2.3	▲0.1	▲1.4	0.8	1.3	1.3	73.7	▲0.8
	2月	2.3	1.8	1.9	1.4	1.8	4.6	72.2	▲1.5
	3月	3.4	▲0.1	3.3	▲0.4	3.7	▲2.7	72.9	0.7
	4月	2.6	▲0.8	3.3	0.2	2.3	0.2	73.0	0.1

(出所) 総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

○ 前月比で小幅減だが、均してみれば底堅い

経済産業省から公表された4月の小売業販売額は前年比+5.8%となり、ほぼ市場予想(+6.0%、弊社予想: +5.8%)通りの結果だった。前月比では▲0.3% (3月: 同▲1.2%)と2ヶ月連続の減少であり、4月の水準は1-3月期平均を0.5%下回っている。だが、1-3月期に前期比+4.0%と非常に高い伸びだった

後にしては、反動減は小幅なものにとどまっている。前月比では減少したが、4月の数字はむしろ底堅い結果である。

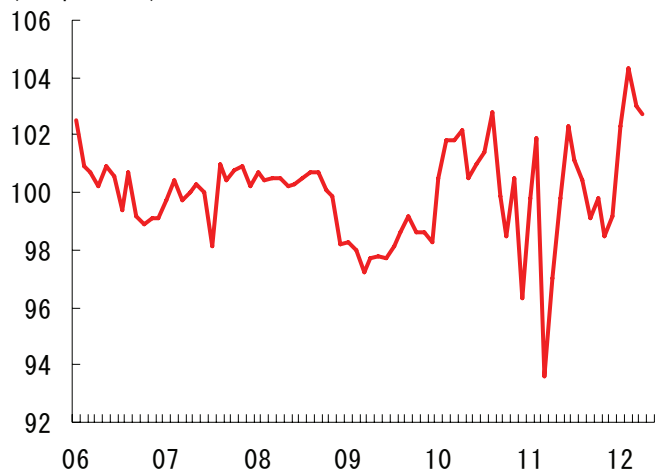
業種別の内訳では、自動車小売業が前月比▲2.2%と減少したことが目立ったが、3月に同+5.1%と増加していた反動の面が大きく、水準は依然高い。エコカー補助金の予算が尽きるとみられる9月までは、自動車販売は高水準での推移が続くだろう。また、機械器具小売業は前月比+0.1%とほぼ横ばいだった。テレビ販売は依然かなりの低水準で推移しているが、季節調整値で見ると落ち込みには歯止めがかかりつつある。そのほか、百貨店を含む各種商品小売業は前月比▲0.1%、織物・衣服・身の回り品小売業も同▲0.5%とほぼ横ばいだった。

また、総務省から公表された4月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比+2.6%となり、こちらも概ね市場予想（+2.2%、弊社予想：+2.5%）通りの結果だった。前月比では▲0.8%（3月：同▲0.1%）と減少しているが、振れの大きい住居などの落ち込みによるところが大きく、消費の基調を見る上でより重要な「除く住居等」で見ると前月比+0.2%（3月：同▲0.4%）となっている。4月の「除く住居等」の水準は1-3月期平均を0.4%上回る。1-3月期が前期比+1.6%と好調だったため、4月以降に反動が出てもおかしくなかった状況であることを考えると、底堅い結果と言って良いだろう。

○ 個人消費は今のところ底堅く推移

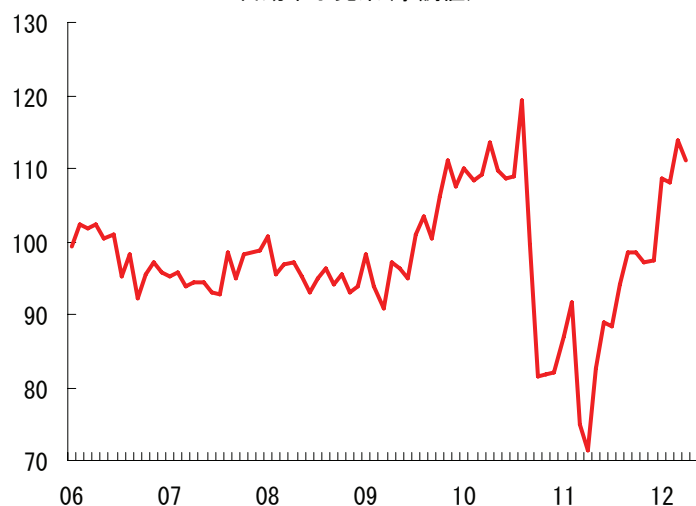
GDPベースの個人消費は1-3月期に前期比+1.1%と大幅に増加していた。だが4-6月期については、①うるう年要因の剥落により前期比で押し下げられること（GDP統計の個人消費はうるう年調整を行っていない）、②自動車による前期比での押し上げ効果が弱まること、などを背景に、伸びは明確に縮小する可能性が高い（小幅減に転じる可能性あり）。ただし、うるう年効果の剥落という見かけ上の要因が大きいことや、1-3月期の伸びが高いことの反動の面があることを踏まえれば、依然消費は底堅く推移していると判断される。エコカー補助金の効果が残る7-9月期までについては、消費の下振れは避けられる可能性が高いだろう。

(05年=100) 小売業販売額 (季調値)

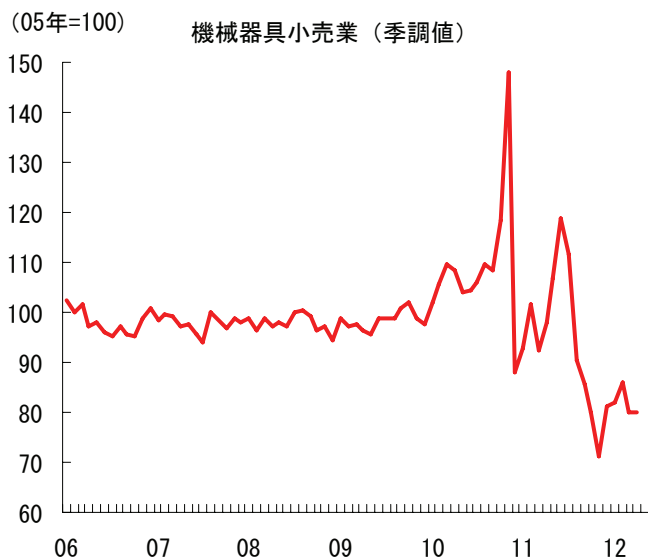
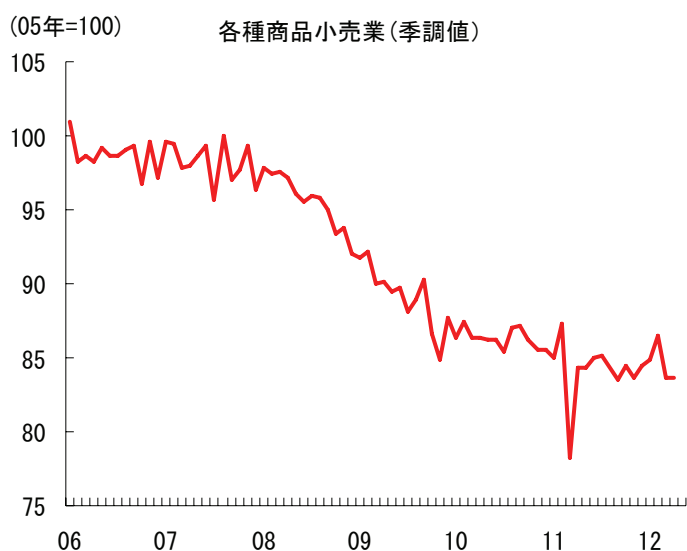


(05年=100)

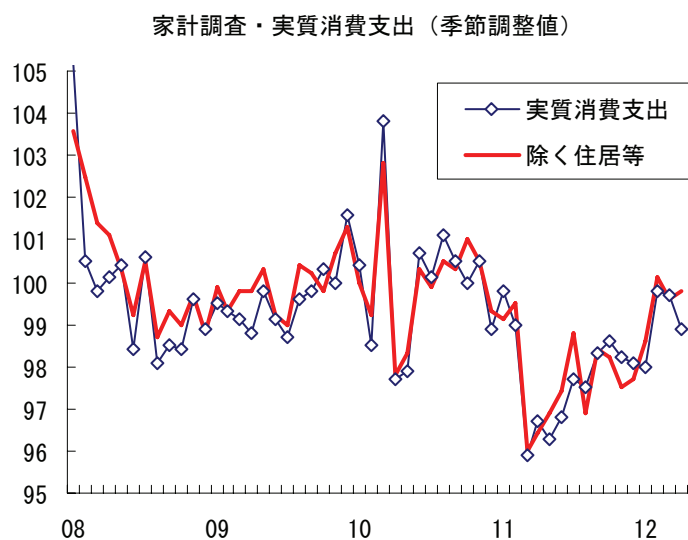
自動車小売業 (季調値)



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 総務省統計局「家計調査報告」